

池田哲郎教授記念号の発刊にあたって

池田哲郎教授は昭和54年4月から同60年3月の間、西南学院大学商学部教授（経営機械化論，オフィス・オートメーション論，情報システム開発論担当）として勤務されたあと，乞われて本学商学部教授として赴任され，昭和60年4月から現在（平成8年3月）まで情報管理論，経営情報学総論，流通情報システム論，情報処理論の担当教授として，教育・研究に専念された次第である。その間，大学行政についても大きく貢献され，役職者として本学の発展に尽くされたことはよく知られている。産業経営研究所長，教務事務機械化委員会，入試システム検討委員会，中村産業学園LAN構築委員会の各委員長を歴任され，協議員，入試審議会委員，自己点検・評価専門委員としても精力的に活動されたことを特筆しておかねばならない。また，学友会柔道部長，第二学友会ワンダーフォーゲル部顧問として，情熱をもって学生の指導にあたってこられたのである。池田教授は第二次大戦中の厳しい時期に海軍予備学生として海軍兵学校に入校された経験があり，復員後，九州帝国大学法学部卒業のあと九州電力株式会社（当時九州配電株式会社）に入社されている。会社では特に企画部事務機械化担当としての業務に従事される中で，PCS，記帳式会計機，コンピューター，OA機器，通信ネットワークなどの情報技術利用の情報システム開発やコンピューター導入計画とその運用について卓越した能力を発揮されており，情報システム部門の責任者の地位にあったことなど，高度情報化時代の先駆けとして理論的構築だけでなく，実務的・実践的情報技術の開発について早くから功績をあげてこられた点をここで力説しておきたい。学界はも

とより、産業界の発展に力を尽くされ、システム監査学会常任理事をはじめ、オフィス・オートメーション学会九州支部運営委員、九州大学出版会理事、福岡県中小企業情報センター専門委員、九州生産性本部運営委員及び参与などの要職をも歴任されている。

池田教授の功績についてこれを逐一詳述することは紙幅の制約もあって断念せざるをえないが、思えば、池田教授は産業界、実務界、そして学界において情報化時代の先駆的研究と実践の人として著名であり、今日の高度情報化社会への対応において不可欠の指導的地位にある方ということができる。いま、定年退職の時期に至ったこととはいえ、池田教授を学園から失うことはまことに惜しいことがらである。

先生は常々、「和と道理」をよく見極めた上で物事を前向きに解決していくことを信条とされており、指導的教授として率先して建設的論理の展開を示して下さったことに対して、改めて深い感謝と敬意を表するものである。おもうに、人は生きていくかぎり、この世の現役であり、その意味では、人生に定年はない、とまでいうことができよう。先生におかれましては、ますますのご健勝と、これまでも増して若々しく生きて下さることを念願してやまない次第である。

九州産業大学商経学会長 山本 政一